

湧水についての聞き取り調査

平成18年12月9日、市内の湧水の昔の様子などをご存知の4名の方にお集まりいただき、お二人ずつ2班に分け、それについてのお話をうかがいました。話者は1班が立川愛雄氏、峰岸秀雄氏、2班が田中一実氏、清水信作氏で、調査者には湧き水探検隊メンバーがあたりました。

第1班聞き取り調査

1. 湧水の過去の記録

調査者：市内の段丘沿いにはかなり湧水がありますが、これらは昔からあったものでしょうか？

峰岸：逆川（字志茂411付近）と縞屋の滝（第七小学校裏）は市内で発見された江戸時代の文書に記述があるので、昔からあったということができますね。

2. 消失湧水について

調査者：現在は消失してしまった湧水もあるのでしょうか？

峰岸：千住院の下に湧水があったという話を聞いたことがあります。場所は新坂を下りたところ（南公園入り口付近）で、そのあたりには水車があったらしいです。

それと熊川団地の下の昭島市境のあたりに松の木があり、その近辺の斜面に湧水があったという話を熊川南地区の人から聞いています。そこには小さな水神の碑もあるそうですが、現在は藪が茂っていて確認ができない状態です。

調査者：水神の碑とは、現在昭島との市境に立っているものとは違うのですか？

峰岸：あれとは別のもので、もっと小さいものらしいです。場所ももう少し福生寄りです。

立川：神明社下に堂川と呼ばれる湧水がありました。その前のお堂に願をかけて、願いがかなったお礼に湧水にドジョウを放したらしく、水路にはドジョウがたくさんいましたね。堂川については森田七郎さんが書いた「福生村堂川端物語」と言う本にいろいろと記述がありますね。

峰岸：金堀（北田園1-9付近）ももともとは湧水の名前だったのではないかと思います。

立川：地形からしてあそこにもあった可能性はありますね。

3. 湧水の呼び名について

調査者：縞屋の滝は名前が通っていますが、その他の湧水で名前がついているものをご存知ですか？

立川：私を知っているのは堂川（神明社裏）と逆川くらいですね。

調査者：それらは湧水自体の呼称ですか？

峰岸：逆川は湧水の名称ではなく、むしろ逆川の湧出口がある川窪さんのお宅の屋号ですね。

調査者：そうすると湧水自体は例えば「逆川の湧水」とか「堂川の湧水」と呼ばれていたのでしょうか？

峰岸：確認はしていませんが、多分そんなところでしょうね。

調査者：名前の由来はわかりますか？

峰岸：逆川の名前の由来は、このあたりの水路は地形の関係で皆西から東に流れているのに、この湧水の水路だけが東から西に流れていたのが「逆川」であると、以前調査に伺ったときに川窪家の当時のご主人から聞きました。今そこに流れている水路は西から東に流れているので、当時別の水路があったのかもしれないです。

立川：堂川はその場所にお堂があったのでそのまま「堂川」が良いと思います。

峰岸：縞屋の滝については以前滝の上に清水さんと言うお宅があり、そこが縞屋と言う屋号だったので縞屋の滝と呼ばれたのだらうと思います。名前があるのはこのくらいかもしれませんね。それとかに坂（かに坂公園）については蟹の化石が出たことに因んでいると言う話もありますが、私としてはあのあたりにも昔は湧水があってサワガニがいたからではと思っています。

4. 湧水の利用について

調査者：昔の生活の中で湧水はどのように利用されてきましたか？

立川：堂川では近隣で洗い物をするのに利用していたと聞いています。下の川については私が戦後福生に越してきた時分は近隣に井戸が無かったので、周辺の住民は洗濯に利用していたのを覚えています。当時の下の川は川面が地上から深く掘れていて、水辺までは階段で降りていきました。

調査者：飲み水に使ったという話は聞いたことは無いですか？

立川：常用と言うことではないが、喉が渇くと湧水を飲んだりしたことはあります。ただ、ヒルが出るから飲むなと言う人もいましたね。

峰岸：田んぼで農作業をしていて喉が渇いたので縞屋の滝の水を飲んだという話は聞いたことがあります。これも常用ではないですね。

立川：ただ、熊川分水ができる以前は井戸も無かったわけだから、それまでは常用の飲料水として利用していた可能性は高いと思いますね。

5. 湧水量

調査者：湧水の水量は昔に比べて減っていますか？

立川：自分が福生に来た50年前からは変化は無いと思います。

峰岸：堂川は急に枯れてしまったのですが、昭和30年代頃まではものすごい勢いで流れ

ていた記憶があります。逆川はいくらか少なくなっている印象ですね。縞屋の滝は最近水量がむしろ多くなったと思います。これについては縞屋の滝を普段から見ていた人も同じ事を言っていました。

立川：堂川は周辺で昭和30年代に下水道工事をやった後、あっという間に枯れてしまったようですね。

6. その他

調査者：何か他に湧水に関する話がありますか？

峰岸：金堀は中世の遺構として存否が議論されている「長者堀」の水源ではないかと言う説があります。

調査者：金堀は「カナボリ」「カネボリ」、下の川は「シモノガワ」「シタノカワ」のどちらが正しい呼び名ですか？

峰岸：名前の由来として堀が金尺のように直角に折れているところがあることから来ているとされる説があり、もしそれが事実なら「カネボリ」だと思います。下の川は熊川の下にあるからと言うのが由来で「シタノカワ」が正しいようですね。

立川：川窪家の湧水の池は、江戸時代に将軍に献上する多摩川の鮎のための生簀として使われていて、神聖な場所であるから当時そこに道路を作ってはいけないという文書が残っています。

峰岸：鮎の大きさについても幕府から注文が出ていて、文書の中でえらから尾までが6寸以上と言う指示がみられますね。

峰岸：大雨の直後だけのようですが、村野モータースの裏の畑（字志茂267付近）も雨季になるとしばしば膝くらいの深さまで水が溜まって池のようになりますね。あれも段丘から水が湧き出たものだと思います。平成18年にたまたま現地に行ってその状態を確認しています。

立川：大雨の時などにおそらくは段丘から染み出すこう言ったものは「野水」とか「野川」とか呼ばれて、例えば江戸時代の作で市指定文化財の「牛浜出水図」を見ると五日市街道の牛浜周辺が水浸しになっていますが、これは第三小学校あたりからの野水によるものではないかと思います。

それと確か昭和22～23年くらいにも牛浜駅の東側の一体が野水で水浸しになった記憶があるし、大正時代くらいには牛一会館付近ではよく野水で水溜りができて、そこで子供が泳いだと古老から聞いたことがありますよ。

第2班聞き取り調査

調査者：私たちは本日ハケ沿いの湧水を訪ねて歩いてみましたが、わからないこともいっぱいありまして、それからまして昔のこととなるとほとんどわからないので、ぜひその辺のところ教えていただければありがたいと思います。

まず今日歩いてみて、水が割合良く出ていたところとといいますと、やはり縞屋の滝のところですね。それから幸樂園から下がる坂のところの、ほたる公園に下りる坂のところが一箇所。それからあとは、福生の方へ来ると、川窪家の逆川は相当湧出が多い。それから清岩院ですね。水窪もかなり出ています。他にはいかがでしょうか？大体ごらんになって、やはり今出ているところというとその辺になりますでしょうか？

清水：縞屋の滝から南へ50mくらいのところにも以前は湧水がありましたが、今は梅雨の時期を除いては枯れてしまいました。そこは以前うちの地所だったのですが、当時はわさびを作っていました。

調査者：縞屋の滝は土地の人からは昔からそのように呼ばれていたのですか？

清水：そうです。あの滝は現在落差が50cmくらいしかないですが、昔は大人の背丈ほどありました。落差が減った理由ですが、滝の落ちる流出口の地質をナメと言うのですが、あのナメが柔らかいため、もっと上部にあった流出口が削られて下部に移動していきました。50年くらいの間に30cmくらいは下に降りたと思います。それともう一点、下の川を暗渠化して道路を作った折、川の土をハケの方へ盛り土したので1mくらい下の地盤が上がりました。ですから流出口は下がって、さらに底は上がってしまったわけです。昔の姿からするとかわいそうに思えますね。

調査者：水量は今と比べてどうですか？

清水：もっと多かったと思います。昭和19年、20年頃は、今の倍くらいは出ていたような気がします。

縞屋には井戸があったので普段は湧水を飲料水に使ってはいなかったようですが、井戸が枯れたときにはあそこに汲みに行って、飲料水に使っていましたね。あとは田んぼを作る耕作者が来て、あそこで冷たい水を飲んだりもしていました。北田園一面が全部田んぼでしたから、耕作者はよく飲料水として利用していましたね。

それと昔は冬になると滝の両脇に30cmくらいのツララができました。最近は地球温暖化の影響か凍らなくなりましたが、私達は子どもの頃はそのツララを細いほうから食べたり、持っているうちに冷たくて手が痛くなったりとそんな思い出がありますね。

調査者：わさびは植えたものだったのですか？

清水：もとは自生したわさびだけでしたが、その後私の父親が奥多摩の方からわさびの苗を買ってきて、石を何段か積んでわさび田を作ったのです。しかしその後下の川の工事のために土を上げられたりして、そのわさび田はなくなりました。

調査者：わさび田の水に湧水を利用したのですか？

清水：そうです。先ほど話した縞屋の滝から南へ50mくらいの場所に昔あった湧水は一年中勢いよく水が出ていたので、そこでわさびを作っていたのです。ただ、今もわさびは数株残っていて、花を咲かせていますよ。

調査者：子どもの遊び場にはならなかったですか？

清水：遊び場でしたね。滝の下の大きな樫の木に太い藤が絡まっていて、子供はその藤にぶら下がってターザンごっこをしました。向こう側は田んぼで、上手な子は向こうまで行けるんだけど、下手な子は下の川の中に落ちこみました。私たちのような近所に住む子どもたちはうまく飛べましたが、原ヶ谷戸とかよそからも遊びに来た子どもは慣れていませんから、みんな川に落ちましたね。私たちが子どもの頃は公園などなかった時代ですから、ハケは良い遊び場でした。危ない場所でしたが良く遊んでいましたね。それとハケは冬暖かかったですね。北風が全部吹き溜まりですからね。

調査者：クレソンも自生していますが、昔からですか？

清水：昔からありましたが、クレソンとは言わなかったですね。川せりと言いました。でも本当の川せりとは違うんですよ。田んぼのせりのことを私たちはせりと言い、川によくあるせりが川せりと言われるのですが、クレソンも川せりと言われていました。川せりは食べたりせず、鎌で切って川に流したり、牛のえさにしたりしていましたね。

調査者：それから福祉センターの前の、現在水をポンプアップしているところにも湧水がありますが、あの辺では遊んだりしませんでしたか？

清水：そこまではあまり出向きませんでしたね。幸楽園の下のほうまではよく行きましたが…。五日市線の線路を越えては行かなかったですね。当時線路は全部土手で道がなかったのので、線路を越えられなかったんですよ。

調査者：では、逆方向の福生方面のほうはどうですか？縞屋の滝より上となると逆川ですが、これは個人のお宅だから、そこで遊んだりはしなかったですか？

清水：遊んだりはしませんでした。あそこは近所の人たちの飲料水でしたから。

調査者：そうするとあの湧水は共同で所有していたのですか？

清水：いや、川窪さんの所有でしょうが、周辺ではみんなあの水を汲んで飲料水に使っていたのですね。良い水ですからね。あの水もまっすぐ金堀公園のところに出てきて下の川に流れ込んでいましたね。

田中：川窪さんに伺ったのですが、今は金堀のほうへ流れていますけど、以前はまっすぐ西のほうへ水を落としていたと聞きました。南ではなく、西のクルマ堀に水を流していたということです。

調査者：流れが他の水路とは逆だから逆川と言うことですね。

田中：逆川については地域の住民の方から、時々なにかの調子で水の流れが悪くなると川窪さんにクレームが入ったそうです。そうすると川窪さんが一生懸命それを直したと川窪さんの奥さんが言っていました。本来は個人所有の水なのですけどね。

清水：川窪さんの家から西のクルマ堀りに水を流してその先に水車があったのですが、私

は昭和11年生まれですから水車があったのは見ていないんです。その水車は今農協の理事長の村野さんの持ち物で、それで村野さんの家はクルマって屋号で呼ばれていました。そこからまた下の方に行って、私のうちの前の五日市街道まで行ったところにはカドヤの池って言うのがありました。

調査者：その池はどの辺りですか？

清水：今マンションが建っているところが池だったんですよ。7小の坂を降りたところのすぐ左手の下の、石浜の渡しの碑があったところですよ。あそこは水は湧いてい didn't でしたが、多分下の川から水を引いていたんだと思います。鯉などを養殖していましたね。そしてその池からちょっと行った所に分岐点がありましたが、そこにも水車があったそうです。そしてもっと以前には、五日市街道の北側の私の家のハケの下も池があったそうです。下の川の水を入れて、やはり鯉を飼っていたらしいです。大きさは池底が4坪か5坪くらいのもだったということです。

調査者：話が戻りますが、逆さ川と言うのは土地の人はみんな逆さ川と言っていたのですか？

清水：そのようですね。逆方向に川が流れるから逆さ川だって言うことです。ただ、上に行っても下に行っても坂を使わないといけない場所にあるのでサカサガだって言う話も、以前中福生の老人から聞いたことがあります。

調査者：清巖院の湧水は今でも水量はかなりのものですが、以前はどうでしたか？

清水：昔から相当出ていましたね。

調査者：それではやはり子どもたちもそのあたりで遊んだりしたものでしょうか？

清水：そうですね。あそこは沢蟹などがいっぱいいましたし、蛍もいましたしね。

田中：あそこは幼稚園の中に水源があるんですね。それから下へ流して木村さんのところへ流れる。これをまた清巖院の方に流して清巖院の中を回って、それから二手に分かれていきますね。

清水：本堂を新築し直したときに地下室を作ったら、水が沢山出てきたらしいですね。ここも新たな湧水ですよ。

田中：ただ、今は流れるほどではないみたいですね。今ある流れは清巖院の幼稚園の方から来ている2つの流れだけです。

調査者：清巖院のもうすこし北に私たちが調査地点1番としている場所がありますが、このあたりについて何かご存知ですか？

田中：その湧水のすぐ北側の福生537番地の森田さんのお宅にも湧水があり、その周辺は水窪と言われていますね。ここはハケの途中から水が流れ出しているのですが、ここにはかなり水が溜まって池のようになっていて、その溜まりの下の方が位置が高いのです。そしてこの高いところにあふれるくらい流れていたんだそうです。

調査者：その水はどこに流れていたのですか？

田中：森田さんのお宅の南隣に広場がありますが、その水を利用してそこで昔は水田をや

っていたそうです。

清水：今は昔に比べて森田さんのところから出ている水が減っているんです。当時は本当にあのあたりは湿地帯みたいな感じでしたよ。

田中：森田さんのところから出たすぐハケの側、番地で言うと福生519ですが、ここにも湧き水がありますね。

調査者：それが私たちが調査地点一番と呼んでいる所ですね？

田中：そしてその下流、中福生陸橋の付近は陸橋を作るためにだいぶ強引に水路の位置を変えたみたいですね。

福生418番地付近の村野さんのお宅のあたりにも、もう一個湧き水があったようですね。水路がこのあたりで落ちてきて、クルマ堀に入るのですが、ここにシモックルマと言う水車があったんですね。このところにもう一つ、湧き水があったという話を聞きました。

調査者：そのあたりを歩いてみたのですが、その付近で水があふれ出ていたところがありました。

清水：それは今言った村野さんの石垣のところですね。

田中：自転車置き場のちょっと上手のところですね。陸橋を作るために地所が削られたらしいですが、それまではそこにも水路があったようです。

清水：湧水もその水路が流れていた石垣の下にあったのだと思います。

調査者：それから福生高校の裏と言うか、福生487番地の井上さんの裏手にも水が流れていて洗い場のようにになっているのですが、ここも湧水かどうかご存知ですか？

田中：水源を見ないと本当の湧き水か雨水かわからないのですが、そこのお宅は入り口が判らずに調査が出来ていないんです。

清水：あそこは下の川を利用して洗い場を作っていたんじゃないかと思います。あそこのハケは低くてすぐに降りられますからね。おそらくは湧水じゃないと思いますね。

調査者：さらに上流はどうでしょうか？

清水：堂面坂のちょっと上の北田園2丁目21番の笹本さんのお宅の藤棚の下にも水が湧いていましたよ。

田中：そこは今でも流れていますね。私は2004年に確認しています。で、この水は向かい側の家の方向にまっすぐ暗渠で流していました。

清水：昔はこのあたりは全部田んぼだったんですよ。

田中：そうですね。それでその調査のときに笹本さんの奥様に当時の様子を案内してもらったんですよ。その方がおっしゃるには水路は北田園2丁目26番の下條さんのところまでが暗渠ですが、そこからは開渠になって、またその先で暗渠になっている。そしてそれが暗渠のまま車堀につながっていました。その水路は2004年に見たときには流れていました。

清水：この水は近所の数軒が飲料水として利用していました。昭和25、6年頃ですが、天秤で水汲みに行っていたのを記憶しています。

調査者：車掘りの跡と言うのは、今下の川になっているところですか？

清水：同じものですね。

田中：同じ流れですが、熊川村に入ってから呼び名が変わって下の川になります。

調査者：清水さんのお宅は牛浜ですが、どちらの名前で呼ばれていましたか？

清水：うちのあたりは下の川ですね。

田中：福生地区も下の川ですか？

清水：ええ、縞屋の滝の下辺りからは下の川です。それまでは車堀です。金堀公園ってありますね。おそらくあそこから下は下の川って言った気がしますね。それから上が車堀。読み方はシモノガワではなくシタノカワと言いましたね。

調査者：シタノカワが本来の言い方なんですか？

清水：そうです。下は全部田んぼで、住民は下の川の一段上のハケ上に住んでいましたから、そこから見てシタノカワですね。

調査者：今までお話しが出た以外に、昔はかなり水量が出ていたけど、今は枯れてしまったと言うところがありますか？

田中：神明社のところにドン川という湧水がありましたね。あれは堂川って言うのがオフィシャルらしいのですが、地元の人にはドン川って言うんですね。

清水：あれは上にお堂があるからですよ。それで堂川。

田中：かなりの水が出ていたようで、ちょうど神明社の下のところから流れていて、この集落ではその水で水田を作っていたんです。ですからここには田の中と言う屋号があるんです。以前は田の中って屋号は何軒かあったらしいんですが、今は一軒だけ残っています。とにかくここ一帯がこの水を使った水田だったようです。そしてご存知のように道路工事か何かで枯れてしまいました。以前はこれが全部流れて、かやと橋の下へ流れていたんですね。今でも玉川上水の脇には水路の跡がそのまま残っているんです。

調査者：その場所はどこですか？

田中：福生682番地の秋山さんのお宅から出たところですね。まっすぐ玉川上水に向かって柵があるのですが、この柵の手前のところに古奥多摩街道があったそうなんです。

清水：清巖院橋の脇から上水沿いに一方通行がありますね。あれも古奥多摩街道のなごりです。

田中：清巖院橋から下手を見ると、玉川上水の左岸には今も水路が残っているんですよ。

清水：石を積んでありますね。

田中：そうです。まだ溝は完全に残っているんです。そのままかやと橋のところまで行って玉川上水をアンダーパスしています。昔は子どもがそのトンネルをくぐって通ったと言う話を聞きました。

清水：私も通りましたよ。下流の金堀までくぐって行くと、まん中辺までは子どもでも背が立たないんですよ。真ん中まで行くと急に落ちて、その後は金掘りまで子どもなら立って歩ける高さになっていました。他にも、さっきのお話の堂川から来る水路が志茂25番

地の森田さんのお宅にもありまして、その下にも暗渠があって、そっちも私が子どものときにもぐって見たんですよ。管が細くて這って潜ったんですけどね。中福生会館のところに消防小屋ありますよね、あそここのところから二重になって上が水が流れた川で、その下に暗渠がちょうど出ているんですよ。

田中：かやと橋の下の暗渠は今も流れています。今ではドン川は枯れていますが。

調査者：では今流れている水は原ヶ谷戸の方からですか？

田中：私が聞いたところでは、今は基地からの雨水が流れているそうです。

調査者：湧き水の利用についてですが、飲用の他に何かご存知なことはありますか？

清水：戦時中に飛行機の燃料にするための松根油を作るとき、陸軍が縞屋の滝の水を樋で引いて使っていました。何百メートルもひいていましたね。おそらく400メートルぐらいあったのだと思います。

調査者：そんなに引いたのですか。

清水：熊川の田んぼですからね。それであそこで松の根っこを山の方の人に掘らせたんですよ。どんどん根っこを取らせてきましてね、それをおそらく大きな釜で茹でたんだと思います。当時私は8歳くらいなのはっきりとはわからないのですが、どんどん水を竹の樋に流して使っていたのだから、茹でて抽出したのだらうと思います。

調査者：他に何かお話はありますか？

清水：熊川分水の水が南公園のジャブジャブ池に落ちるところをドウドウと言いますよね。これと同じく金堀公園に水路の水が落ちるところもドウドウと呼んでいました。ドウドウと落ちる音から名前がついたのでしょうかね。

調査者：その水は先ほどの話だと堂川から来ていたのですね？

清水：ええ、それから原ヶ谷戸の方からも流れ込んでいました。

調査者：原ヶ谷戸の方からも来ていたのですね。

田中：原ヶ谷戸のあたりでは、大字福生267番地の村野モータースの敷地が裏にあるのですが、ここからも水が出ていました。昔は雨の後など水が多すぎて、畑が全部水びたしになってしまったそうです。

調査者：そのあたりで水が溜まると子供が泳いだという話を聞いたこともあります。

田中：ええ、でもそれではこの土地を利用できないので、今はここに枡を作ってそっちに水を落ととしています。だからここは現在水が外に見える形では流れていません。

清水：何しろ原ヶ谷戸も、すごく水が出るところだったんですよ。郷土資料室に牛浜出水の図と言う江戸時代の絵図がありますね。あの水源は多分原ヶ谷戸の水なのです。原ヶ谷戸から湧いてきた水が、牛浜まで寄せて来たところを描いたんですよ。

付：調査箇所写真



地点 1



地点 2



地点 3



地点 4



地点 5



地点 6



地点 7



地点 8

付：水道法水質基準適否検査の結果

平成18年8月29日に全調査地点のうち地点1、地点4、地点8の3箇所で水道法水質基準適否検査を実施したところ、検査の結果はいずれも飲用可であり、これらの湧水の水質が良好であることがわかります。

※あくまでも一度だけの検査ですので、この結果によりこれらの湧水の水質が常に飲用に適していることを保証することはできません。

	項目	検査値	規制値	検査法
調査地点1	一般細菌	34 (個/ml)	100以下	標準寒天培地法
	大腸菌	不検出 (100ml)	不検出	特定酵素基質培地法
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	0.6 (mg/?)	10以下	イオンクロマトグラフ法
	塩化物イオン	1.7 (mg/?)	200以下	イオンクロマトグラフ法
	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	0.5未満 (mg/?)	5以下	燃焼酸化-赤外線式TOC計
	pH値	6.8(15℃)	5.8~8.6	ガラス電極法
	味	異常なし	異常でないこと	加温式
	臭気	異常なし	異常でないこと	加温式
	色度	1未満 (度)	5度以下	白金コバルト比色法
	濁度	1未満 (度)	2度以下	透視比濁法
	鉄及びその化合物	0.05未満 (mg/?)	0.3以下	フレイムレス原子吸光光度法
	マンガン及びその化合物	0.005未満 (mg/?)	0.05以下	フレイムレス原子吸光光度法
	トリクロロエチレン	0.001未満 (mg/?)	0.03以下	HG-GC-MS法
	テトラクロロエチレン	0.001未満 (mg/?)	0.01以下	HG-GC-MS法
	1,1,1-トリクロロエタン	0.001未満 (mg/?)	0.3以下	HG-GC-MS法
判定	水道法水質基準に適合			
調査地点4	一般細菌	57 (個/ml)	100以下	標準寒天培地法
	大腸菌	不検出 (100ml)	不検出	特定酵素基質培地法
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	2.6 (mg/?)	10以下	イオンクロマトグラフ法
	塩化物イオン	3.5 (mg/?)	200以下	イオンクロマトグラフ法
	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	0.5未満 (mg/?)	5以下	燃焼酸化-赤外線式TOC計
	pH値	7.2(15℃)	5.8~8.6	ガラス電極法
	味	異常なし	異常でないこと	加温式
	臭気	異常なし	異常でないこと	加温式
	色度	1未満 (度)	5度以下	白金コバルト比色法
	濁度	1未満 (度)	2度以下	透視比濁法
	鉄及びその化合物	0.05未満 (mg/?)	0.3以下	フレイムレス原子吸光光度法
	マンガン及びその化合物	0.005未満 (mg/?)	0.05以下	フレイムレス原子吸光光度法
	トリクロロエチレン	0.001未満 (mg/?)	0.03以下	HG-GC-MS法
	テトラクロロエチレン	0.001未満 (mg/?)	0.01以下	HG-GC-MS法
	1,1,1-トリクロロエタン	0.001未満 (mg/?)	0.3以下	HG-GC-MS法
判定	水道法水質基準に適合			
調査地点8	一般細菌	9 (個/ml)	100以下	標準寒天培地法
	大腸菌	不検出 (100ml)	不検出	特定酵素基質培地法
	硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	2.2 (mg/?)	10以下	イオンクロマトグラフ法
	塩化物イオン	3.3 (mg/?)	200以下	イオンクロマトグラフ法
	有機物(全有機炭素(TOC)の量)	0.5未満 (mg/?)	5以下	燃焼酸化-赤外線式TOC計
	pH値	7.3(15℃)	5.8~8.6	ガラス電極法
	味	異常なし	異常でないこと	加温式
	臭気	異常なし	異常でないこと	加温式
	色度	1未満 (度)	5度以下	白金コバルト比色法
	濁度	1未満 (度)	2度以下	透視比濁法
	鉄及びその化合物	0.05未満 (mg/?)	0.3以下	フレイムレス原子吸光光度法
	マンガン及びその化合物	0.005未満 (mg/?)	0.05以下	フレイムレス原子吸光光度法
	トリクロロエチレン	0.001未満 (mg/?)	0.03以下	HG-GC-MS法
	テトラクロロエチレン	0.001未満 (mg/?)	0.01以下	HG-GC-MS法
	1,1,1-トリクロロエタン	0.001未満 (mg/?)	0.3以下	HG-GC-MS法
判定	水道法水質基準に適合			